

SYSTEM\_A4IS\_X

# 人間精神の垂直性について

民主主義と資本主義を超えて

臨床メモと文学的考察に基づく試論

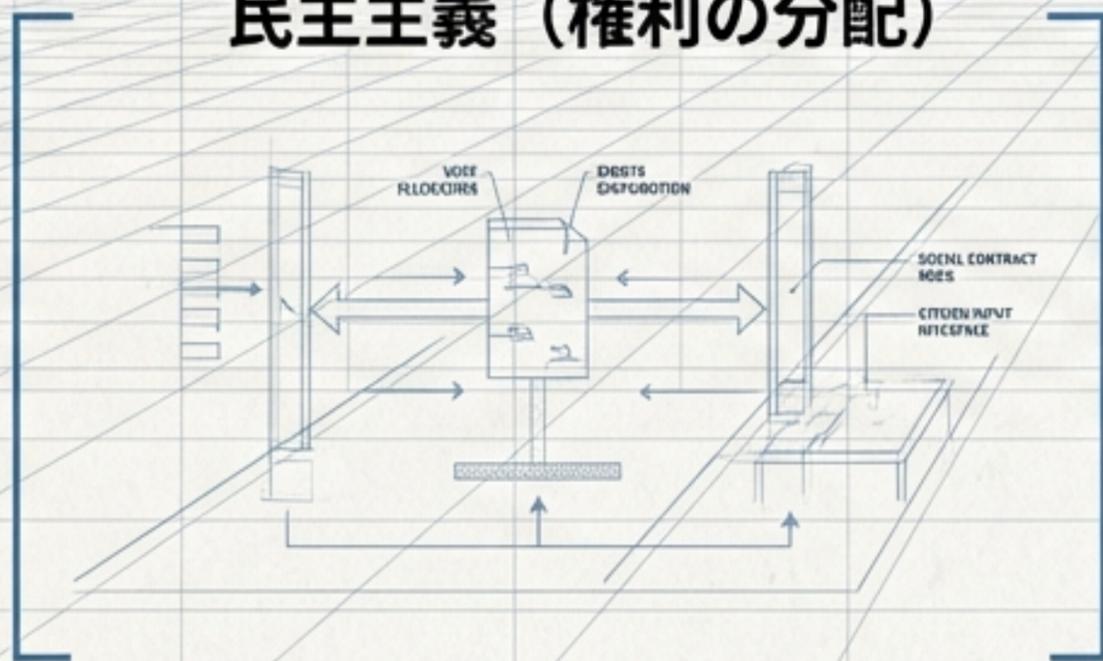
# 水平の制度

民主主義と資本主義は、水平のシステムである。

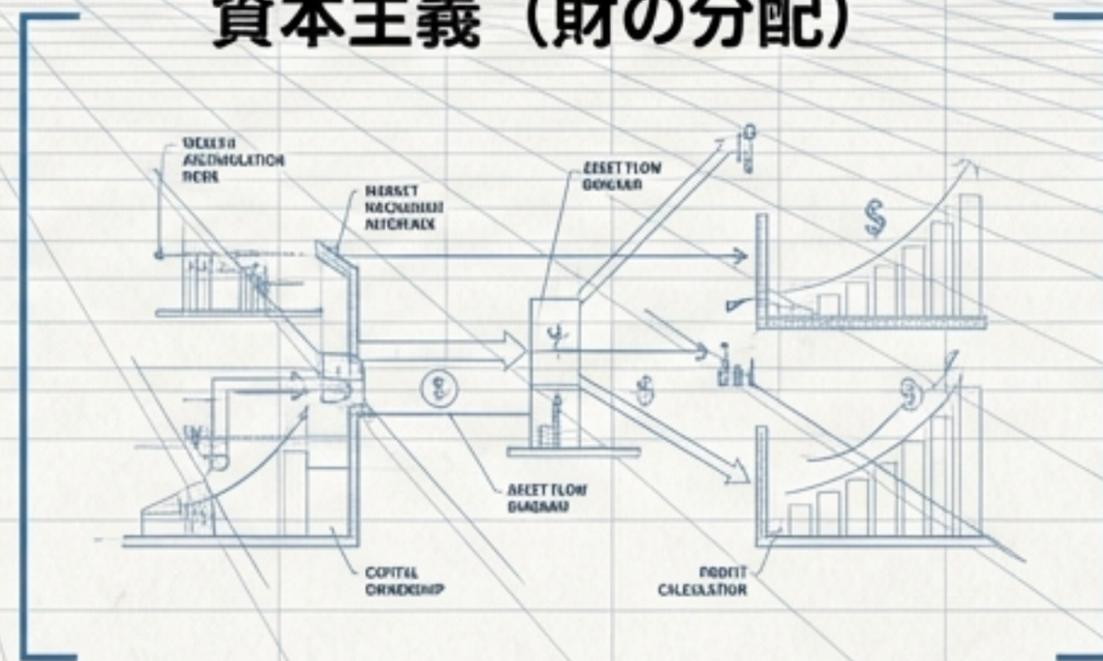
これらは地上における人間関係（所有、支配、権利）を管理する。

その論理は「計測」「計算」「多数決」によって成立している。

## 民主主義（権利の分配）



## 資本主義（財の分配）



# 召使の領分

「食って寝て生活することなど召使に任せておけ」



- 人間はパンがなければ生きられない。しかし、パンだけで生きるなら動物と変わらない。
- 民主主義と資本主義は、パンを配分するための「召使」である。
- それらは手段であり、人生の目的そのものではない。

# ドストエフスキーのパラドックス

ドストエフスキーの世界では、  
聖人と罪人が混在する。

淫らで暴力的で非合理的な人間が、  
安全な中産階級よりも神に近いことがある。

イワン、ドミートリイ、アリョーシャ。  
彼らは水平の論理を破綻させる。

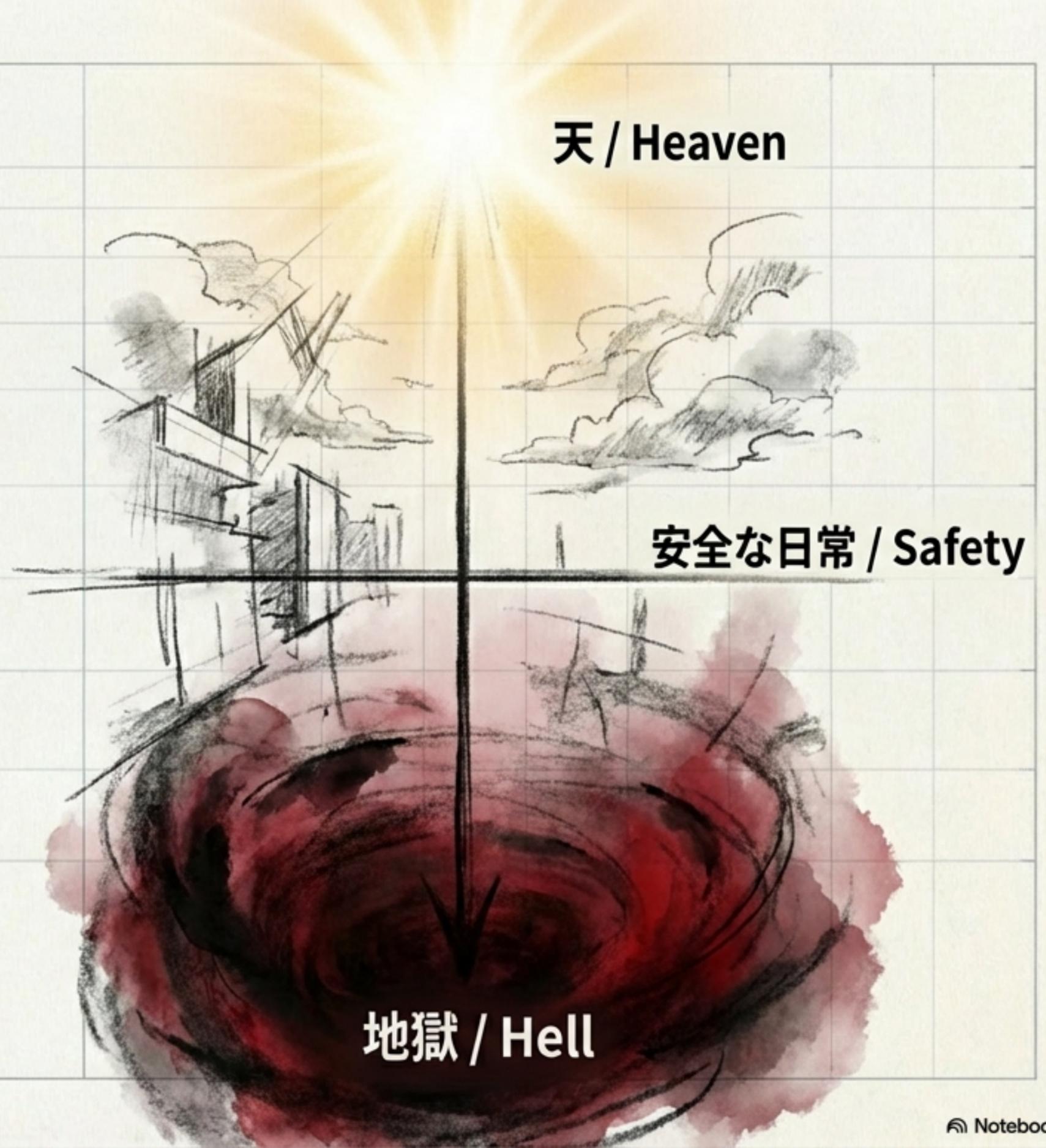
# 垂直の跳躍

- 垂直とは、「パン以外のもの」を求める運動である。
- 取引 (Transaction) から 信頼 (Trust) へ
- 要求 (Demand) から 祈り (Prayer) へ
- 計算の平面を突き破る瞬間。



# 天と地獄への志向

- 人間であることの証は、垂直方向への「はみ出し」にある。
- それは水平的な拡張（より多くの金、権利）ではない。
- 祈る殺人者は垂直であり、何も感じない市民は水平である。
- 垂直性とは、道徳的な善悪ではなく、魂の強度である。



# 計測できない剰余



人間には、投票（民主主義）と貨幣（資本主義）  
では計測できない部分がある。

それを「魂」「実存」「尊厳」と呼んでもよい。  
確かな事実は、取引不可能な「何か」が残るということだ。

# 垂直の現象



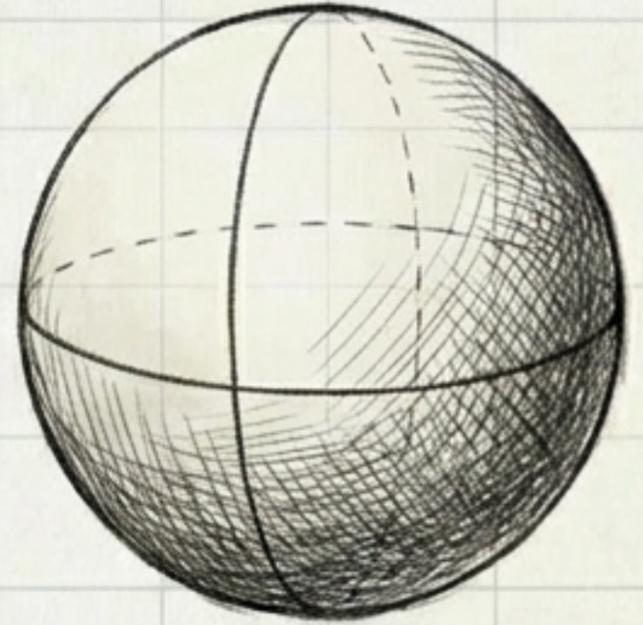
## 【芸術】

市場のためではなく、  
垂直の対話のために  
作られたもの。



## 【涙】

論理的理由なく  
流れる涙は、  
魂の实在証明である。



## 【真理】

多数決で決まらず、  
利益も生まない。  
ただそこに在るもの。

## 平面の窒息



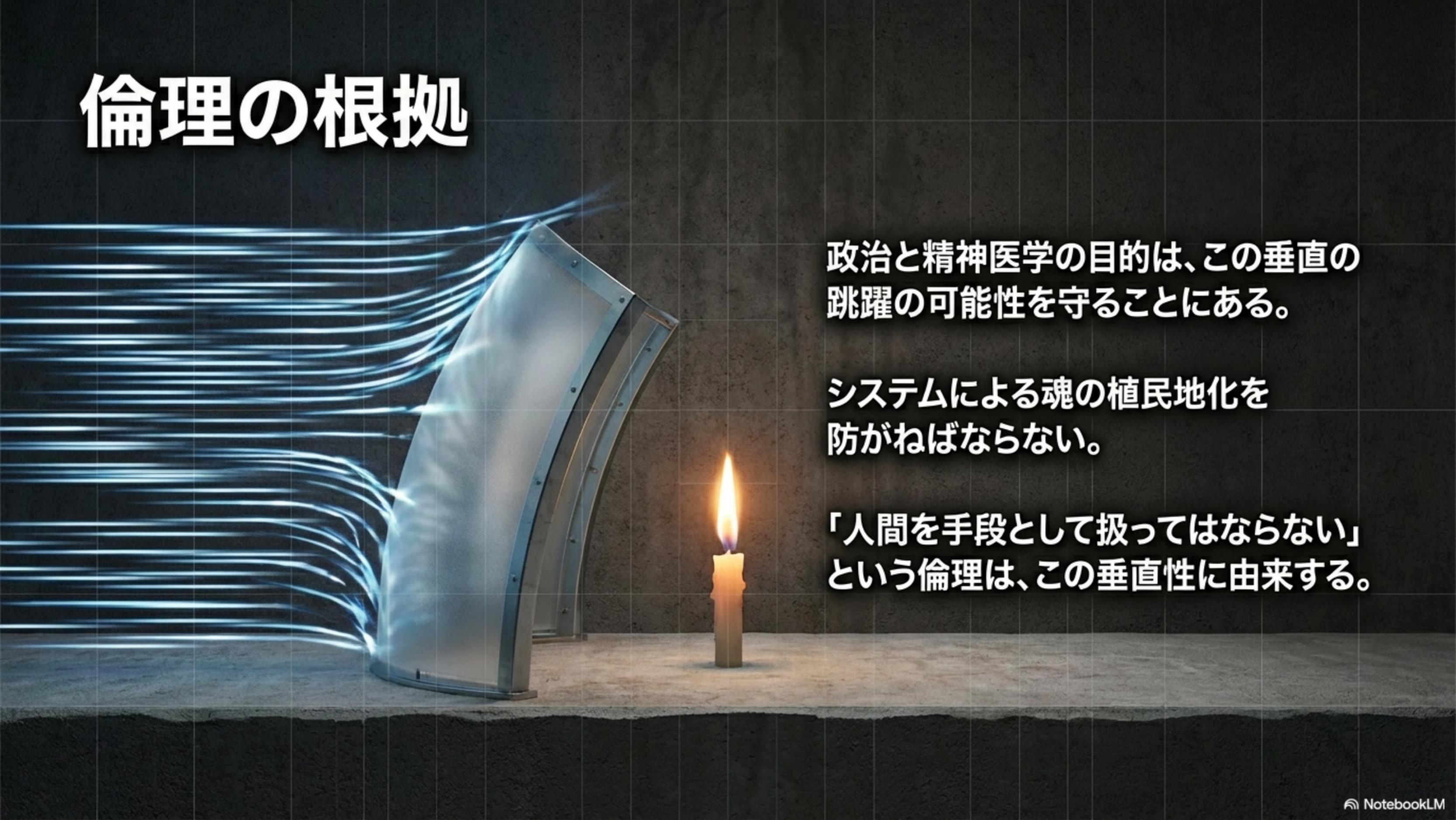
垂直の志向を失った社会は、どれほど豊かでも窒息する。  
私たちは二次元の存在へと「平坦化」される。  
権利と義務だけでは、人間は完全になれない。

# 這い回りながら、見上げる



私たちは泥の上を這い回り（水平）、同時に星を見上げる（垂直）。  
制度の中で生きながら、制度に所属しない。  
この「動物であり精神である」という両義性こそが人間である。

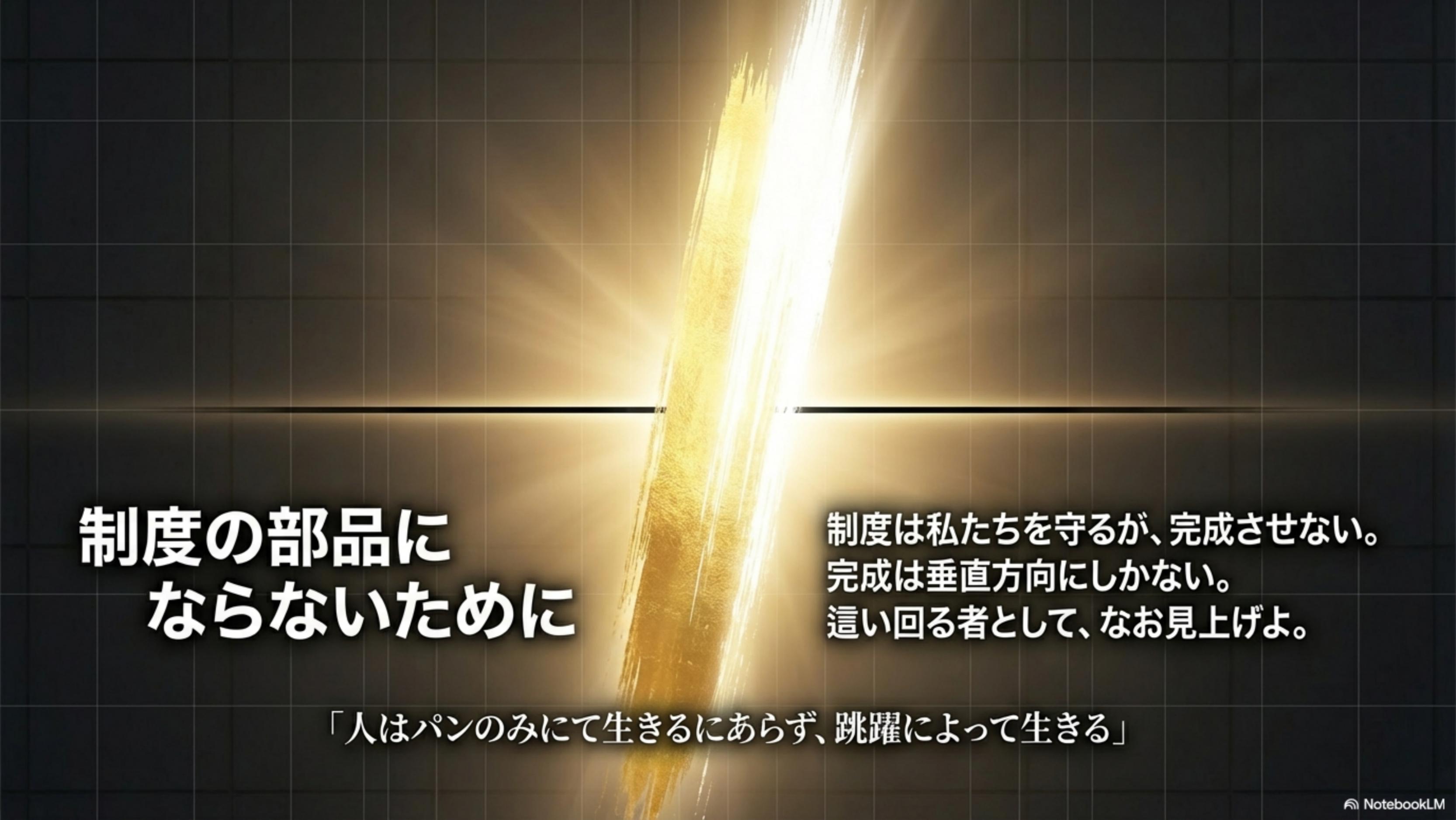
# 倫理の根拠



政治と精神医学の目的は、この垂直の跳躍の可能性を守ることにある。

システムによる魂の植民地化を防がねばならない。

「人間を手段として扱ってはならない」という倫理は、この垂直性に由来する。



制度の部品に  
ならないために

制度は私たちを守るが、完成させない。  
完成は垂直方向にしかない。  
這い回る者として、なお見上げよ。

「人はパンのみにて生きるにあらず、跳躍によって生きる」